

くんだけれども、遊んでたりだとか。本当に遊んでも暮らせるぐらいだった。まあそういう仕事もしてたんです。

人生であんなにつまんないことはないっていうぐらい、  
酒屋をはじめた一、二年目は本当につまんなかった。

結局二六でやめることになるんですけど。ある程度長くはたらいっていると、自分のサラリーマン人生っていうものに関しても先が見えてくるわけですよ。いちおう主任にはなったんだけど、係長になるのにあと三年、五年。それで、課長になって部長になって。営業所が東日本には四カ所あったんで、一度は転勤もしなきゃいけない。実はその転勤させられるギリギリだったんです。次の年には異動しなきゃいけないかった。それで、どうしようかな、と思っていた。

やっぱりサラリーマンを四年も五年もやっていると、「一度は自分でやってみいな」っていう気持ちが強くなってくるんですよ。おまけに、サラリーマン時代に売り上げが下がって困ることがなかったんで、自分の中で「オレもできるんじゃないか」っていう変な自信ができてたんですよ。結果的には間違いないんですけどね。加えてうちの先代も

だんだん歳をとってきて、老いていくのを見てたので、そろそろもう実家に入ろうと。いちおう先輩に相談したら、急な話だからまあ半年間はちよつと無理だと言われて。それで半年はたらいのちに、円満退社で実家の仕事に入った。

もともと好きじゃなかったっていうこともあったし、それまで言うところの五〇万円円の売り上げが一万円になった、というぐらいの差がある感覚だった。だから「こんなこまい仕事……」と思ってしまう。それから会社組織だと、若い人がいればおじさんたちもいる。横のつながりもあってすごくおもしろいんだけど、三人だけの家族だと、すごく閉鎖的なんですよね、あたりまえですけど。そりゃあいまはね、酒屋の友達もいっぱいいるからいいんだけど、同業者の知り合いが一人もない状態で。だからとにかくつまんなかったんですよ。人生であんなにつまんないことはないっていうぐらい、酒屋をはじめた一、二年目は本当につまんなかった。前の会社の先輩と飲みに行ったりはしてたんだけど、とにかく愚痴ばかり言ってたと思います。毎日がつまんねえ、つまんねえって。

会社にとめてたときは接待とかあるので、設計の先生とか発注者を連れて、新宿あたりのスナックに行くわけです。正直その場にいるときにはね、接待だからたいしておもしろくもないです。でも、やっぱりすごく華やかじゃないですか。それが酒屋だと

ね、近所のおじちゃんおばちゃんがね、ビールはアサヒがいいだのキリンがいいだの、秋味出てるのになんであんなのにはないのよ、とか。うちは地酒専門店なんで、あんまりパツク酒は置いてなかったんですけど、みなさんそれぞれこだわりもあったんで、あれがねえだのこれがねえだの、っていう感じで。面倒臭いしつまんなかったんですよ。くっだらねえ仕事だ、と。それがもう嫌で嫌で、でもそこはもうやめられないわけですよね。

ちようどうちの嫁さんと出会ったところで、嫁さんとも「ちゃんとやんなきゃ結婚できないよ」っていう話もしてたんで、そこから少し勉強をはじめて、試飲会なんかにも積極的に足を運ぶようになった。三〇歳ぐらいだったかな、うちの息子が生まれたぐらいからですかね、ちようど釣りを覚えたんですね。いまはやめてしまっただけでもないんだけど、この道の先にあった釣具屋のヤツとすぐく仲がよくなった。それで夕方とか夜、店が暇になると、本当はないんだけど「配達いってきまーす」って言って、ここで一、二時間しゃべる、っていうこともしてました。それいつも自営業じゃないですか。だからお互いに店の話なんかもしながら。そうやっていい意味で一日のストレスを発散できたり、楽しいこともできてきましたね。

「自分のところだけ」なんてことはありえないですよ。

結局、大きく変わったのは先代が死んでからじゃないですか。それまでは何やってんのかな、と思っても、教えてくれないんですもん。あえて教えてもらおうとも思ってたかった。うちの先代って人嫌いだったんですよ。地域のちがう酒屋さんどうしで、おなじ銘柄やっているととか、そういう横のつながりが何もなかったんです。おれは十何年間もそういうものだと思ってたんですね。たとえば問屋さん主催の試飲会なんかに行くと、まあそこそこ有名店だったみたいで、何かとあいさつはされてるんですよ。そうするとふつうは、この人はこういう人だから、って紹介したりとか、名刺交換を促したりするじゃないですか。でも、なんにもなかったんです。ただ利き酒をして、「あ、どうも」って帰っていく。まあ問屋さんにもそこそこ大事にしてもらってたんでしょうけど、問屋さんのエライ人でも、私は名刺交換をしたことなかった（笑）。向こうから言われない限り、親父が促すことはなかったんですよ。

そんな先代があるとき突然亡くなったんですね。私が店に入って一〇年経ったところかな。それでそのときに一番感じたのは、自分の力のなさ。先代が死んだあと、直取引で